

「中野区基本構想検討素案」及び「新しい中野をつくる 10 か年計画（第 3 次）（素案）」
に係る意見交換会の結果について

「中野区基本構想検討素案」及び「新しい中野をつくる 10 か年計画（第 3 次）（素案）」
に係る意見交換会の結果について報告する。

1 意見交換会の実施状況（中野区自治基本条例第 14 条の規定に基づき実施したもの）
（1）実施日時・場所及び参加者数

実施回数 8 回

日時	会場	参加者数
平成 27 年 11 月 5 日（木） 19 時～※	桃園区民活動センター	13 人
平成 27 年 11 月 7 日（土） 14 時～	南中野区民活動センター	4 人
平成 27 年 11 月 10 日（火） 19 時～	江古田区民活動センター	6 人
平成 27 年 11 月 11 日（水） 19 時～	中野区役所	5 人
平成 27 年 11 月 16 日（月） 19 時～	上高田区民活動センター	15 人
平成 27 年 11 月 17 日（火） 19 時～	鷺宮区民活動センター	3 人
平成 27 年 11 月 19 日（木） 19 時～※	野方区民活動センター	19 人
平成 27 年 11 月 20 日（金） 19 時～	東部区民活動センター	12 人
計		77 人

※は区民と区長の対話集会と一体的に実施。

（2）意見交換会における意見・質疑の概要

別紙 1、2 のとおり。

2 電話、メール等による意見等の受付状況（平成 27 年 11 月 26 日現在）

件数 7 件（内訳：窓口 1 電子メール 4 電話 1 声のポスト 1）

3 今後の予定

平成 28 年

- | | |
|-----|------------------------|
| 1 月 | 基本構想検討案策定、10 か年計画（案）策定 |
| 2 月 | パブリック・コメント手続の実施 |
| 3 月 | 基本構想 議案提出、10 か年計画 決定 |

「中野区基本構想検討素案」に係る意見・質疑の概要

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
1	基本構想第1章に、「自らの責任で未来を切り拓いていく。いよいよ本格的な地方分権時代の到来」とあるが、区がこれを行うのか、区及び区民の協働のもとに行うのか。	区民が主体であり、その信託を受けて区が具体的な活動を行うものだと考えている。
2	基本構想第2章に、「地球的視野に立って、平和な世界を築き、環境を守り再生させ、次世代の人々へ受け渡していきます」とあるが、本当にできるのか。	基本理念であり、それを念頭に置いて、将来像や10年後の姿を描き、施策展開するものである。
3	基本構想第3章領域Ⅱに、「それぞれのライフステージやスタイルに応じ、安心して中野のまちで暮らしています」とあるが、ライフステージやスタイルとは、どういう意味か。	ライフステージは、生まれてから亡くなるまでの生涯における人生の段階をいう。また、ライフスタイルは、それぞれの人の暮らし方や考え方ということだと考えている。
4	基本構想第3章領域Ⅱに、「まちの交通環境が整備され、誰もが快適に日常移動が出来ます」とあるが、どういうことか。	道路空間の整備、南北移動の円滑化、公共交通機関までの距離や時間の解消などにより、誰もが快適に区内を移動できているという状態である。
5	基本構想第3章領域Ⅱに、「避難等災害時に支援の必要な人への対応が充実し、誰もが安心して地域生活を送っています」とあるが、どういうことか。	災害時避難行動要支援者の個別支援計画を踏まえた支援の必要な方への対応を充実させ、誰もが安心して暮しているという状態である。
6	基本構想第3章領域Ⅲに、「日常生活の中で低炭素なライフスタイルが浸透し、次世代に引き継がれています」とあるが、都市における産業振興は、CO ₂ を増加させると思う。このあたりをどう考えるのか。	産業の活性化とCO ₂ の減少の両立は難しい問題であるが、再生可能エネルギーの普及促進、機器の省エネ性能の向上等CO ₂ の排出抑制の取組により、解決していけるものと考えている。
7	基本構想第3章領域Ⅳに、「学校は、地域やボランティアの様々な活動によって、地域コミュニティの核となり地域の連帯が深まっています」とあるが、どういうことか。	学校が地域の活動の拠点となり、学校と地域の結びつきが強まっているという状態である。

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
8	基本構想第3章領域Vに「地域での課題に、それぞれの立場から取り組み、その解決を図っている」とあるが、地域の方が、自ら地域課題を見つけ、解決を図ることが難しい面があると思うが、どのように考えているのか。	高齢者をはじめ様々な立場の方々が、地域の課題解決に向けて取り組んでいてほしいと考えている。例えば、生涯学習大学では、地域貢献型のゼミ等を行っているところであり、そういった活動を契機に、地域活動につながっていけばよいと思う。
9	基本構想で描くまちの姿が、どうすれば実現するのか、もう少し具体的に示してもらわないと住民にはイメージが湧きにくい。	基本構想はめざすまちの姿として目標を示しており、そのまちの実現に向けて区がどう取り組んでいくのかという具体的な方策を、10か年計画で示している。
10	若い世代の意見の反映が重要。手段はいろいろある。若い世代の意見を取り入れて欲しい。	基本構想審議会の委員には20代、30代の人もあり、そういった若い世代の意見も審議会の答申に入っている。今回の素案はその答申を踏まえたものとなっている。

「新しい中野をつくる 10 か年計画（第 3 次）（素案）」に係る意見・質疑の概要

1 全般的な事項に関するもの

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
1	基本構想では、少子高齢化や生産年齢人口の減少、地球環境問題、大規模災害の懸念など、対応すべき課題を挙げているが、それに対する 10 か年計画の取組の優先順位のつけ方がよく見えてこない。戦略と表現するならば、何から対応していくのかを示すべきではないか。	目標達成を目指した方策を「おもな取り組み」で示し、その取組の展開や時期を「実現へのステップ」で示している。ステップ 1 に示したものから取り組んでいくことになる。
2	10 か年計画の目標値については、達成可能なものとするべきではないか。	これまでの傾向等を踏まえ、あるべき姿として目標値を設定し、その実現に向けて取り組んでいくこととしている。
3	10 か年計画を進めていくにあたっての財政の裏付けを示した方がよい。	財政的な裏付けについては、来年度予算編成を踏まえ、長期的な視野を持ったものを、計画案の中で示す予定である。
4	将来人口の推計はどのように見込んでいるのか。計画の中に明示すべきではないか。	中野区では近年人口増の傾向があり、ここ 2 年は前年比 0.8～0.9%増となっている。こうした状況を踏まえ、将来人口の推計の精査を行っている。詳細は計画案の中で示していく。
5	定住促進対策について、どう考えているのか。	まちの魅力を高めることや、保育園の待機児対策をはじめ、子育て施策の充実により、定住が促進され则认为している。
6	前回の計画の内容は尊重して欲しい。また、計画を策定した後に内容を変更する際にはきちんと説明を行うべきである。	今回、社会状況の変化等を踏まえて、10 か年計画の改定を進めている。計画の変更等については、毎年の PDCA サイクルを踏まえたものとなっており、個々の事業実施の際は説明も行っている。
7	今後も 23 区という形のままだが効率的かどうか検討が必要ではないか。近隣区との連携等について 10 年計画でふれてもよいのではないか。	東京 23 区においては、大都市の一体性・統一性確保の観点から、消防、水道等、東京都が実施しているものもある。また、近隣区との連携についても必要なことと考える。

2 「戦略Ⅰ まち活性化戦略」に関するもの

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
1	「世界に開かれた経済活動とにぎわいの拠点」とあるが、「世界に開かれた」との表現がよくわからない。経済活動とどう結びつくのか。また、情報都市化についても打ち出したらどうか。	中野の都市としての活力を発揮させるためには、業務機能、商業機能、人々の交流機能の拡充が必要と考えており、その方向性を発展させていきたい。また、企業等に中野のまちが選ばれるためにも、情報インフラの整備も重要な要素になると考えている。
2	中野駅周辺都市再生プロジェクトについて、低炭素まちづくりを推進するとあるが、どのような意味なのか。	建物のエネルギー管理の効率性をまち全体として高めるしくみ等、CO ₂ 排出の少ないまちづくりのことを表している。
3	西武新宿線沿線・交流拠点のまちづくりの成果指標で、西武新宿線5駅等の周辺の居住人口が10年で4000人増としているが、どのような施策を考えているのか。	駅前の整備や道路の拡幅と合わせて沿道のまちづくりを進め、魅力あるまちを実現させることで人口の増加につながると考えている。
4	西武新宿線沿線のまちづくりについて、駅前広場等の整備を進めるとある。これまで交通広場という表現で説明を受けてきたが、違いはあるのか。	交通広場は都市計画上の表現である。わかりやすく表現するため、駅前広場と呼ぶこともあるが、基本的に両者に相違はない。
5	新井薬師前駅周辺のまちづくりでは、駅と直結した福祉施設や医療機関を提案したい。	新井薬師前駅周辺について、様々な機能の充実などを検討していきたい。
6	新井薬師前駅前の拠点空間の整備、上高田地区防災まちづくりとあるが、具体的にはどうなるのか。	駅前の拠点空間の整備については、駅前広場の整備と周辺のにぎわいの創出を図り、防災まちづくりについては、補助220号線の整備と沿道建物の不燃化・耐震化の促進などに取り組んでいく。
7	区画街路第4号線は平成37年には完成しているのか。	実現へのステップにおいて、取組の展開や時期を示しており、それに向けて取り組んでいく。

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
8	中野区は東京の真ん中にある立地で、どこへ行くにも便利である。観光についても、PR 次第でもっと人が集まるのではないかな。	中野区は、区内のほとんどの地点が鉄道駅から概ね 800m 圏内という便利なまちである。また、四季の都市には、新たに大学が誘致されて外国人留学生の受皿となり、留学生が増えてきている。その他企業の本社も来ており、ビジネス拠点ともなっている。今後、より人の集まるまちとしていきたい。
9	外国人観光客にどう対応していくのか。	外国人等の受入れ環境の充実が重要で、すでに中野駅北口・南口、区役所、東中野駅、中野坂上駅、野方駅、鷺ノ宮駅にフリーWi-Fiを整備した。今後は発信情報の精査、個店との連携等を踏まえ、一層の充実を図りたい。また、ホスピタリティの向上などにも取り組んでいく。
10	外国人来街者を増加させるとのことだが、魅力となる観光資源は、今後整備していくのか。	今後整備していくものもあるが、哲学堂公園やブロードウェイのサブカルチャー、食文化等の日本人の暮らしそのものなども、観光資源になると考えている。
11	まちづくりは、慎重に進めて欲しい。道路拡幅等で店がなくなり、人口が減ってしまうこともある。今いる人が住み続けられるような計画でないと他へ移ってしまう。また、商店街についても、商店だけだと人は減っていく。足が向くような場が必要。サロン等もいい。地域の人と一緒に考えて欲しい。	まちづくりや商店街の振興など、地域の方と話し合いながら進めていきたい。

3 「戦略Ⅱ 安全・居住都市戦略」に関するもの

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
1	本町一丁目は木造密集地域である。早く消防車が入れるようにして欲しい。	防災まちづくりは、重要なことと認識している。意見を受け止めて対応していきたい。
2	大規模公園の整備の具体的な場所は決まっているのか。	鷺宮近辺では、妙正寺川の調節池の上部に白鷺せせらぎ公園を整備した。また、本町五丁目、南台一丁目に大規模な公園整備を進めている。この他にも、弥生町六丁目の国家公務員宿舎跡等に、地域の防災性を高める大規模公園を整備する計画がある。
3	(仮称) 上高田五丁目公園は、どのような整備を考えているのか。	ステップ1で整備計画の策定を予定しており、詳細は今後検討していく。
4	神田川に親水公園としての整備計画があるようだ。妙正寺川でも同様にできないものか。	妙正寺川はまだ、局地的な豪雨には対応しきれていない。安全性が高まれば親水公園等の整備も考えられる。
5	平和の森公園を友愛クラブで利用する機会があるが、区の南の方から行こうとすると遠い。ゲートボール等のできる場所を、南のもっと近いところにできないか。	本町五丁目に新しい公園ができる。1.2haの半分位は、多目的グラウンドになる予定であり、ゲートボール等も可能となる。南台一丁目にも大規模な公園を整備しており、今年度中にはオープンの手配があるので、大会の開催も含め、区の南の方での活動場所の確保はできると考えている。
6	公園では「犬を入れない、ボール投げをしない」などの表現が多くみられる。一律に禁止するのではなく、いくつかの公園では犬の入園やボール投げを可能にするなど、利用のルールを見直して欲しい。	ドッグランの整備や、キャッチボールなどが可能な公園利用については、近隣の迷惑や騒音等の事情によってできないこともある。ただ、公園の使い方の検討を進めていき、近隣の理解、ルールの徹底等の上で、様々な使い方のできる公園を増やしていきたい。
7	南北格差を感じる。にぎわっているのは中野駅周辺だけではないのか。また、南北の交通が弱いように感じる。	西武新宿線連続立体交差事業に伴い、周辺まちづくりを進めていく。南北動線の確保ということでは、大和町中央通りの整備等に取り組み始めた。

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
8	足の不自由な人たちのことを考えると、狭い路地も走るコミュニティバスが必要ではないか。なかのんは、大きなバス通りしか走らなかった。また、鷺宮地域から新渡戸記念中野総合病院まで、一本で行けるようになると良い。	中野駅で分断される側面はある。北の人が南の病院や施設を使うこともあるので、そのあたりの利便性の向上を前提とした検討も必要であると考えている。
9	補助 220 号線に期待している。道路を単に作るだけではなく、無電柱化も進めて欲しい。	220 号線など都市計画道路は、実現へのステップに示したように進めていきたい。無電柱化についても、特に木密地域などでの実施方法について、検討を進めていきたい。
10	バリアフリー整備について、道路の段差解消のみではなく、駅舎の安全な避難経路確保やホームドアの設置まで広げて欲しい。	駅についてもバリアフリーだけではなく、安全に利用できる施設であることが必要であり、鉄道事業者に対して要望を行っていききたい。
11	高層住宅へ対応できるはしご車は数台しかなく、道路状況にも左右され、災害時の対応が困難と聞いている。防災対応の具体的な施策を聞きたい。	高層住宅でははしごが届かない現実はあるが、耐火構造でもある。木密地域の道路拡幅によって、避難路の確保と消火活動が可能になっていく。区は、延焼しないまちづくりを目指している。不燃化を促進し、耐火性を向上し、安全性を高めていきたい。
12	地元の防災会では、災害時の避難所が、2か所に分かれる。区割りの見直しをして欲しい。	避難所の割当については、防災会ごとが原則であるが、収容人数等の関係で、いくつかの防災会では、複数避難所への割当となっている。検討課題としていきたい。

4 「戦略Ⅲ 環境共生都市戦略」に関するもの

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
1	ごみの有料化について、他区の導入の有無、経緯、負担額等を聞きたい。また、負担の際は、有料シールを貼るのか、重さで課金するのか。	23区では導入事例はない。区では、審議会から、ごみ減量のために費用負担制度が有効である旨の答申を受け、検討を進めているところである。導入理由としては、埋立処分場の寿命が約50年余りと言われており、その延命が必要であるとともに、ごみ排出量に応じて費用を負担していただくことで公平性を確保できることがあげられる。費用負担制度の導入前に、一層のごみ減量や資源化といった環境整備が必要であると認識している。負担額については、先行自治体の例を参考に検討中である。ごみ袋の容量ごとに課金する方法や有料シールによるなどの方法が考えられる。
2	中野駅を降りても、殺風景な感じがする。人を呼ぶには、うるおいが大切だと思う。	まちのみどりが、人々にやすらぎとうるおいを与えることを踏まえ、身近なみどりを増やす取組を進めていく。

5 「戦略Ⅳ 生きる力・担う力育成戦略」に関するもの

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
1	妊娠からの一貫した切れ目のない支援は、すこやか福祉センターを中心に実施されているが、体制は十分なのか。	子どもから高齢者までを地域包括ケアで対応するために、しっかりした体制を整えていきたい。
2	東部地域は子育て広場や、児童館等も結構ある方だが、地域によってはないところもある。整備が必要ではないか。居場所、支援の場所があることが大事で、人材も必要。	乳幼児親子の活動場所として、子育て支援拠点を整備していくこととしている。支援する人のネットワークやコーディネートも必要。どこに住んでいても安心して子育てをしていけるよう考えていきたい。

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
3	キッズ・プラザは、入る際に呼び鈴が必要等、これまでの児童館の様に気軽に入りにくい。地域の人々とのつながりが薄くなって行くのではないかと感じるが、どのように考えているのか。	学校内の施設であり、安全確保の面から出入りに配慮している。キッズ・プラザには地域の方たちの子育て力との連携が必要だと考えており、これまで同様に関わっていただきたい。
4	子どもの急病でも、仕事の休みが取れずに困っているという話を聞く。仲町保育園で病後児保育を行っているが、保育数も少なく、登録等の手続きも必要なので不便を感じると聞いている。	病後児保育については、区内2か所で行っており、病児保育については、社会福祉協議会のファミリー・サポート事業で行っている。また、開発予定の江古田の森の施設内でも実施する予定である。ご指摘の通り、手続きの簡素化への配慮も必要だと考えている。
5	乳幼児の集う場所が少ない。身近な所に集う場所が欲しい。みなみ児童館も廃止が計画されているが全てを廃止するのではなく、一部でも大人も子どもも集える場所を残して欲しい。	児童館はキッズ・プラザに転換し、小学校の中に整備していく計画である。乳幼児が集う場所や児童館の跡地の活用については、需要等を踏まえ検討していきたい。
6	みずの塔ふれあいの家は、子ども、親、高齢者がふれあえる貴重な施設である。今後の展開はどうなっていくのか。	児童館はキッズ・プラザに転換し、小学校の中に整備していく計画である。高齢者施設としての機能は引き続き必要と考えている。世代間の交流は、施設に限定せず、コミュニティ形成の上で必要であり、ご意見を踏まえてあり方について検討していきたい。
7	区立保育園の民営化推進について書いてあるが、待機児童は大きな課題である。保育行政における区の関わり方も示すべきではないか。	3月に子ども・子育て支援事業計画を定めた。これに沿って保育施設の整備を進めていくことになる。区は待機児童について、民間保育施設の整備及び運営の支援を行っている。また、区立保育園の民営化によるサービス拡充も図っていく。
8	民間保育所のサービスは区立保育園より不十分ではないか。	区立でも民間でも認可基準は同一であり、基本的なサービスは変わらない。また、民間の持つノウハウを活かし、より充実したサービスが期待できることから、民間保育施設の整備を進めていきたい。
9	6・3・3 製の制度変更を聞いたが、小中一貫教育を実施するのか。	区では、小中学校が円滑に連携して、学力の向上などを図ることが重要だと考えており、小中連携教育を推進していく。

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
10	平和の森小学校は、1 年が 4 クラスあり、ランチルームなども教室として利用しており、休み時間のボール遊びも禁止されている。沼袋小学校を併用するなど、子どもの環境を良くする工夫はできないか。また、早急な移転を実現するべきではないか。	移転計画はあるが、当面は現在の場所で努力したい。沼袋小学校の併用は、移動距離の事もあり教育上難しいと考えている。移転については、区としても早期に実現したいと考えている。
11	外国人の保護者が日本語の勉強が出来ないため、学校からの便りが理解できない、PTA の通知が読めず、参加もしないなどということを知ることが、どう考えているか。	国際交流協会などで一般向けの日本語教室を実施している。また、子どもへの日本語指導の派遣事業等もある。ただ、単に言語の問題だけではなく、文化の違い等の課題もあり、すこやか福祉センター等とも連携し、個別に対応していきたいと考えている。
12	語学教育をどこまで学校教育に取り入れていくのか。	英語教育では小中学校に、外国語指導助手を配置している。今後、英語の教科化などを見据え、適切に対応していきたい。
13	公立中学校の部活動についての不満の声を多く聞く。指導も熱心とは言えず、校庭も狭く活動日も少ない。指導者を外部から呼ぶとか、区民活動センターの場所を貸し出すとか等の工夫はできないのか。	部活動については、校庭等活動場所の確保、教員の指導力等の課題がある。今後、体育団体等との連携による指導の充実や、複数の学校による部活の合同実施等の取組、校庭等以外に部活動に使える場所を工夫していく等、より良い環境づくりに努めていきたい。
14	中学生の自殺などで、親がその兆候に気がつかなかったというコメントを聞く。そのあたりの対策は行っているのか。	いじめなどについて、子どもだけではなく、保護者に対してもアンケートを行っている。また、保護者への啓発は重要であるので、教員向けに行っている研修の一つに保護者にも参加してもらっている。家庭と学校が連携して、子どもの状況把握に努めていきたい。

6 「戦略Ⅴ 地域見守り・支えあい戦略」に関するもの

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
1	「町会・自治会への加入促進」とあるが、現在の加入率は相当低いと聞いており、どのように進めていくつもりか。	町会・自治会の加入率は、50%程度で、加入促進が重要である。町会連合会でも検討部会を作り、検討をしているが、集合住宅と町会との関わりについては、デベロッパー・不動産業者との協力・連携が重要だと考えている。
2	町会も高齢化し、加入も頭打ちの状況。このまま地域活動の担い手や見守り活動など続けていけるか不安。援助の具体的な手立てを計画に盛り込んで欲しい。	町会活動の取組の紹介による加入促進や区民活動センターの運営委員会の活動支援、大学、NPO などとの連携を考えている。
3	男性の高齢者は、なかなか地域のコミュニティにとけこめない面がある。何か役割を持たせると、参加しやすいのではないかなと思うがいかがか。	高齢者施設等とそうしたノウハウについて関係者との情報共有を図っていきたい。
4	高齢化が進み、地域に見守りの必要な方が多くなってきている。そうした方の状況を関係機関につなげたいが、個人情報保護のことが気にかかっている。どのように扱うべきか。	地域の見守り－介護－医療が連携した地域包括ケア体制の構築を進めている。見守りが必要な方の状況については、すこやか福祉センターや地域包括支援センター等に連絡をいただければ、一人ひとりの状況に応じた支援を行っていく。
5	「要支援者の見守り等強化、身近な支えあい拠点の整備支援」とあるが、高齢者会館という名称が高齢者を遠ざけている側面もある。	高齢者会館のネーミングについては、今日的な課題だと思う。愛称をつけるという選択もあるが、後期高齢者が増加していく中、高齢者会館のあり方について検討が必要だと考えている。
6	すこやか福祉センターについて、前回の計画では、整備される場所が特定されていたが、今回の素案には具体的な表記がないように思う。素案から案になるとときには具体的な場所などが明らかにされるのか。	すこやか福祉センターの展開としては、中部すこやか福祉センターは整備済み、南部すこやか福祉センターは中野富士見中学校跡に新施設を整備中である。北部については、沼袋小学校跡に整備することを考えている。鷺宮については、現在、検討を進めているところである。

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
7	高齢者に対する施策が見えてこない。	認知症対策、介護予防、住まい等対策を示している。地域の包括ケアは、区のみでなく、民間も含めて進めていく。高齢者会館は16か所展開しているが、今後、健康づくりの拠点として考えていきたい。

7 「戦略Ⅵ スポーツ・健康都市戦略」に関するもの

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
1	オリンピックの事前キャンプの誘致については、どういう競技を考えているのか。	大規模な施設を必要とする競技の誘致は難しいかもしれないが努力したい。また、パラリンピックの競技等も考えている。
2	オリンピック・パラリンピックの開催は、中野区にとってメリットはあるのか。	スポーツを始めるきっかけともなるし、外国人観光客も多く訪れることにより、まちの活性化につながる。また、パラリンピックの開催は障害者の社会参加やユニバーサルなまちづくりの視点を考える契機となる。
3	スポーツ・コミュニティプラザの設置場所は確定しているのか。	中部はすこやか福祉センターと併設で設置済み、南部は中野富士見中学校跡に整備中のすこやか福祉センターと併設で設置する予定である。北部については、沼袋小学校跡に整備することを考えている。鷲宮については、現在、検討を進めているところである。
4	平和の森公園に中野体育館の移転計画があり、また草地広場に陸上トラックを整備すると聞いた。トラックが出来ると、草地広場が使いえなくなるという声もある。体育館建設についても、オリンピック前で資材等が高騰する時期に、なぜ行うのか。平和の森公園に中野体育館を整備することにより、どのような効果があるのか。	平和の森公園は、現在でもスポーツ利用が多い。区として、体育館や陸上トラックの設置を通して、スポーツ振興の拠点としたい。スポーツ振興により、区民の健康づくりが進み、医療・介護の費用の低減が出来ると考えている。また、陸上トラックの整備により、草地広場が使いえなくなるという声もあるが、草地公園の大部分は残るし、子どもたちが遊ぶ横を、ランナーが走り抜けるなどということのないように使用時間帯の管理をしていく。利用者同士譲り合って利用して頂きたいと考えているが、今、草地広場を利用している方々に、大きな制約をするつもりはない。

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
5	平和の森公園は、広域避難場所として防災上の機能を有している。体育館を建設し、公園の面積を減少させるのは問題である。	体育館の大規模空間を生かし、帰宅困難者の一時滞在場所として活用するなど、むしろ防災機能は高まると考えている。また、この数年で7か所の大規模公園が整備され、区全体の災害時の安全性は高まっている。
6	アスリート作りもよいが、子どもの健康を考えると、斜面の昇り降り等、自然な形で出来ると良い。その意味で、平和の森公園にある山などは良い。自然の中で育つ力が出来るような公園整備をして欲しい。	ご指摘の点には配慮して、公園整備を行っていききたい。
7	中野体育館は、第九中学校跡地に移転するという話もあったが、平和の森公園への移設となった経緯を知りたい。	3.11の震災後に防災機能の強化という視点から、第九中学校跡地から四季の都市での建設の検討を行った。その後、超高齢社会を迎える中で、健康づくりや体を動かすことが重要な課題であるとの認識の下、屋外屋内合わせたスポーツの中心となる場所として、平和の森公園での検討となっている。
8	体育館を平和の森小学校跡地に建設するということはできないのか。	体育館を平和の森小学校跡地にという意見だが、法務省施設が移転し、その跡に平和の森小学校が移転、そして平和の森小学校跡地に中野体育館では、時間がかかりすぎる。スポーツ振興の観点から、2020年オリンピックを見据えた対応としたい。
9	体育館は鷺宮にもあり、配置の南北のバランスが悪いのではないか。	配置については、区の南側にも大規模公園やグラウンド、コミュニティプラザ等スポーツ環境が整いつつある。
10	保育園児が隣接の公園で転倒してけがをした際に知ったが、区内に小児の入院病床がない。このあたりの整備は必要だと思うが。	小児科医療の充実は必要だと思う。入院も含め配慮していききたい。
11	感染症施策について、HIVに関する記載がないのは何故か。	感染症全体として記載したものである。個別の記載については検討したい。
12	自殺予防対策として、ハイリスク者に個別に対応する予定はあるか。	すこやか福祉センターでは心の健康について、普及啓発や専門相談等を実施している。

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
13	障害者の社会参加の促進については、積極的に進めて欲しい。単に、施設において、封筒張り、チラシ折りなどではなく、畑を作る、その素材でレストランを営業する等、様々な就労の機会を提供し、障害者が選択できるようになるとよい。	来年4月から、障害者差別解消法が施行される。社会参加の促進は大切なことで、外出や意思疎通の支援等の充実をしていきたい。また、就労等については、一般就労をめざし、企業の理解促進や企業への紹介等の充実を図っている。就労支援施設では、特性に応じた受注の向上、工賃アップを踏まえた、共同受注の仕組みや企業の開拓も行っている。
14	子どもの貧困にはどう対応していくのか。	子どもの貧困対策については、教育の支援(学習支援)、生活の支援(生活保護)、保護者の就労支援、経済的支援(手当など)など、様々な取り組みをしている。

8 「戦略Ⅶ 区民サービス基盤強化戦略」に関するもの

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
1	バーチャル区役所の整備とあるが、どのような意味なのか。	マイナンバー制度の導入により、様々な手続で添付書類が省略されることから、電子手続が拡大する。また、テレビ電話等で、区役所の窓口に来庁しなくとも、相談などが可能な状況になっている。そういった区役所をバーチャル(仮想の)区役所と呼び整備を進めていくものである。

9 「戦略Ⅷ 持続可能な行政運営戦略」に関する事項

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
1	「区民意思と合意に基づく政策決定」とあるが、どう進めていくのか。	現在の区民参加の仕組みを、より充実していきたいと考えている
2	基本構想の将来像に、人権が守られ、尊重し合える地域社会について描かれている。これに対応する 10 か年計画における具体的な施策はどのようなものがあるのか。	人権意識の向上と多様な人の参画の推進にかかる施策として、家庭・学校・職場・地域社会等の様々な場面での講演会等による人権にかかる普及啓発の取組を位置付けている。
3	LGBT の人について、関係団体との連携により支援を進めることはできないか。	LGBT の方々に対しては、状況把握、理解促進に努め、必要な支援等について整理していきたい。そうした中で、関係団体との連携も図っていきたい。
4	外国人住民への対応を、何か考えているのか。	区の窓口対応として、タブレット端末を活用した翻訳システムの導入をはじめたところであり、今後も、外国人が地域で暮らしやすくなるための取組を進めていきたい。
5	区の組織づくりが大切だと思う。よりフレキシブルなものにしていく必要がある。	ご指摘については、同感であり、今後も追求していきたい。
6	区長就任時の職員数は、何名か。それと新区役所整備時に、1400 名とすると聞いたが、今後とも職員の削減を行う予定なのか。	就任時には、区全体で 3082 名だと記憶している。現在は約 2000 名であり、これ以上減らすつもりはない。1400 名は、新区役所内で従事する委託事業者を含めた従業者数の想定であり、庁外施設の職員を含んでいない。
7	インターネット上の翻訳機能は、将来的には向上すると考えているが、このあたりを、中野区が産学と連携し、推進することは考えないのか。	現状の翻訳機能は、まだまだ不十分であり、区として関与することが望ましいのか考えたい。
8	新区役所整備の予定について聞かせて欲しい。	現在の中野体育館敷地と隣接する土地に整備を予定し、事業手法は直営方式を想定している。平成 28 年度以降に基本設計・実施設計を行い、平成 31 年度から建設工事、平成 33 年度に竣工の予定である。

No.	区民からの意見・質疑	区の見解・回答
9	新庁舎の建設予定地は、中野区洪水ハザードマップでは浸水区域になっている。災害への備えは考えているのか。	立地条件や過去の浸水被害を踏まえると、危険度は高くないと考えているが、水害発生時にも、災害対策拠点として十分機能する庁舎を整備していく。
10	豊島区の例もあるが、新区役所整備後、現在の区役所の土地は借地等で活用するのか。	新庁舎整備費の財源を賄うものとして、現庁舎等の敷地の活用を考えている。
11	児童館、U18 プラザ、高齢者会館などと年齢などで切り分けるのではなく、誰が来ても良いというような施設展開はできないか。	施設の本来目的を考えると、年齢別の切り分けが必要になる場合がある。全ての年代が利用できる施設となると、区民活動センターになると考えている。
12	第九中学校跡地は、現在、堀越学園が使用しているが、どうなるのか。新渡戸記念中野総合病院が移転するということも聞か。	新渡戸記念中野総合病院からの要望は受けており、協力をしたいと思うが、正式に決まったものではない。
13	学校に、教育機能以外も入れ、有効活用を図るべきではないか。	現在、キッズ・プラザを併設している。今後も、児童館をキッズ・プラザに転換し、全小学校に整備する予定である。